



第10回フェリス女学院大学日本文学国際会議 「夏目漱石国際シンポジウム」開催のお知らせ

フェリス女学院大学（学長：秋岡 陽）は、2016年12月8日（木）、9日（金）、10日（土）の3日間、第10回フェリス女学院大学日本文学国際会議「夏目漱石国際シンポジウム」を開催します。

この「日本文学国際会議」は、本学の教育・研究の柱の一つである「日本文学・日本語学」を介して、私たちがなし得ることを日本の内外に問いかけ、海外において日本文学・日本語研究を担う方々と真摯に議論する場として、2002年から開催しています。

第10回となる今回は、2016年に没後100年、2017年に生誕150年を迎え、日本の国民的作家ともいべき「夏目漱石」にスポットを当て、「漱石は世界をどう読んだか？ 世界は漱石をどう読んでいるか？」をテーマに2部構成で開催します。

第1部では、小説家・夏目漱石の原点を探る場として、英文学者・夏目漱石は世界文学をどのように読んだのかを、第2部では、夏目漱石の文学的世界に魅了された人々によって各国語に翻訳された漱石文学が世界中でどのように読み継がれているかを、世界の第一線で活躍する日本文学・日本文化研究者を招聘し、多角的な視点から検証します。

また、本シンポジウムでは、企画の一環として、「漱石国際エッセーコンテスト」も実施いたします。日本語を母語としない外国人、留学生の方を対象として、世界で漱石がどのように読まれているか、21世紀の現代においてなおも生き続ける漱石の魅力を、「漱石とわたし」をテーマにエッセーに綴ってもらいます。審査結果は2016年秋に朝日新聞及び朝日新聞デジタルで発表するほか、最優秀賞、優秀賞受賞者は、シンポジウム第2部にて表彰式を行う予定です。

詳細は別紙をご参照ください。

なお、12月のシンポジウム、漱石国際エッセーコンテストは、ともに、フェリス女学院大学と、朝日新聞社・岩波書店・国際交流基金の4者主催での開催となります。

【お問い合わせ先】

- ・シンポジウムについて
フェリス女学院大学企画・広報課（TEL 045-812-9624）
- ・エッセーコンテストについて
朝日新聞社読書推進事務局（TEL 03-5540-7985）

以上



第10回フェリス女学院大学日本文学国際会議「夏目漱石国際シンポジウム」

【シンポジウム概要】

12月8日(木) 前夜祭

会 場 フェリス女学院大学緑園キャンパス

基調講演 小森陽一(東京大学教授)

12月9日(金) 第1部 漱石は世界をどう読んだか?

会 場 フェリス女学院大学緑園キャンパス

報 告 者 田久保浩(徳島大学教授)、大野英二郎(フェリス女学院大学教授)、
林少陽(東京大学准教授)、夏目房之介(学習院大学教授)、飯田祐子(名古屋大学教授)

12月10日(土) 第2部 世界は漱石をどう読んでいるか?

会 場 有楽町朝日ホール

報 告 者 マイケル・ボーダッシュ(シカゴ大学教授)、キース・ヴィンセント(ボストン大学准教授)、
安倍オースタッド玲子(オスロ大学教授)、朴裕河(世宗大学教授)、李広志(寧波大学准教授)

※敬称略

報告者は都合により変更になる場合がございます。

【漱石国際エッセーコンテスト概要】

テ ー マ 「漱石とわたし」

応募資格 海外及び日本在住で日本語を母語とせず、日本滞在歴2年未満の人。在日留学生も可。

応募規定 日本語で2000字以内

締 切 2016年8月10日

審 査 員 姜尚中(熊本県立劇場館長)、中島国彦(早稲田大学名誉教授)、
ロバート・キャンベル(東京大学教授)、安藤裕康(国際交流基金理事長)、
岡本厚(岩波書店社長)、西村陽一(朝日新聞社常務編集担当)、
鈴木佳秀(フェリス女学院学院長) ※敬称略

贈 賞 最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作5点程度

発 表 2016年秋、朝日新聞及び朝日新聞デジタル

詳細は <http://www.asahi.com/shimbun/sosekiessay.html> を参照